

つつが虫病について

新潟県福祉保健部感染症対策・薬務課

1 つつが虫病とは

- つつが虫病は、細菌の一種であるリケッチアによる感染症です。北海道を除く全国で発生が見られ、春～初夏及び秋～初冬に2つの発生ピークがあります。また、東南アジア等にも広く存在しており、輸入感染症としても注意が必要です。
- 本疾患は、リケッチアを保有したツツガムシ（ダニの一種）に刺されることによって感染します。人から人へ感染することはありません。
- 典型的には、5～14日の潜伏期の後に、全身倦怠感、食欲不振とともに頭痛、悪寒、発熱などの症状が現れます。数日後より、体幹部を中心に発しんが現れ、リンパ節の腫れを伴うこともあります。

2 対応・予防方法

- 抗菌剤による治療を行います。通常、抗菌剤が速やかに効きますが、治療が遅れると重症化する場合があるので、早期発見・早期治療が重要です。
- 野外作業、山菜採り、アウトドアレジャーなどで山林や草地などに入る際は、病原体を保有するダニに刺されることによって、つつが虫病などのダニ媒介感染症に感染する可能性がありますので、次のことに注意しましょう。
 - (1) 長袖、長ズボン、長靴を着用し、肌をできるだけ出さないようにする。
 - (2) 衣類を草むらに置かず、草むらでの休息を控える。
 - (3) 防虫スプレーを使用する。
 - (4) 山野での作業後は入浴するなどして、吸血前のダニを皮膚から洗い流す。
 - (5) ダニが体についていないか確認する。
 - ・ダニに刺されている場合は早期に除去することが重要です。早ければ病原体が体内に注入することを防げる場合もあります。
 - ・自分でダニの体をつまんで引き抜こうとすると、病原体を自分の体内に注入してしまうことや、ダニの頭部が皮膚に残ってしまうことがあるので、皮膚科で除去してもらうことをお勧めします。

3 その他の主なダニ媒介感染症

- 日本紅斑熱：日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニ【大きさ約3mm】に刺されて起こる感染症です。潜伏期は2～8日で、発熱、発疹を伴って発症します。
- SFTS：SFTSウイルスを保有するマダニ【大きさ約3mm】に刺されて起こる感染症です。潜伏期は6日～2週間で、発熱、食欲低下、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛などで重症化し、死亡することもあります。
- その他に、ライム病、回帰熱、ダニ媒介脳炎等があります。

4 届出状況

		令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
つつが虫病	新潟県	7	4	6	4	6	2
	全国	544	492	445	354	295	48
日本紅斑熱	新潟県	0	0	1	0	0	0
	全国	490	457	500	523	675	69
重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	新潟県	0	0	0	0	0	0
	全国	110	118	134	122	191	49

※令和8年は新潟県が第21週（5月18日～5月24日）、全国が第20週（5月11日～5月17日）時点

【参考：啓発ツール・リーフレット等】

・厚生労働省ホームページ「ダニ媒介感染症」(<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>)